

令和3年度

## 学生の意識啓発に関する調査研究事業 報告書

- 講座実施日／令和3年11月10日（水）
- 対象／佐賀大学 キャリアデザイン受講学生（1・2年生）
- 参加人数／157名
- アンケート実施期間／事前アンケート：令和3年10月27日（水）から1週間  
事後アンケート：令和3年11月17日（水）から1週間
- 回答者数
  - 事前アンケート：135名（対象人数：197名、回答率：68.5%）
  - 事後アンケート：99名（対象人数：157名、回答率：63.1%）

## はじめに

アバンセでは、毎年、佐賀県内の各大学・短期大学と共催で「学生への意識啓発事業」を実施しています。

この事業では、大学、短期大学の学生の皆さんに、性別にとらわれずに自分らしく生きていくという学びを通じて、男女共同参画の意識を高めていただくために、キャリアデザインやワーク・ライフ・バランスなどをテーマにした講座を行っています。

また、講座の前後にアンケート調査を実施し、「学生の意識啓発に関する調査研究事業」として、講座に参加する前と後での学生の意識の変化に関する調査研究を実施しています。

今年度は佐賀大学と共催し、キャリアデザインを受講する1・2年生を対象に実施しました。

講師には、東京大学大学院教授の瀬地山 角（せちやま かく）さんを迎え、「笑って考えるワーク・ライフ・バランス～ジャンボ宝くじを必ず当てる方法!?～」のテーマで講演いただきました。

今回の講座では、ワーク・ライフ・バランスや固定的性別役割分担意識の解消について、社会背景等に触れながら、その必要性について学びました。講師の瀬地山さんは、テレビ番組「世界一受けたい授業」で、東大生へのアンケートで人気講義No.1 に選ばれたジェンダー論の研究者で、関西弁でユーモアあふれるトークに、難しく捉えられがちな男女共同参画について、学生の皆さんは楽しみながら学ぶことができた様子がアンケートの回答からもうかがえました。

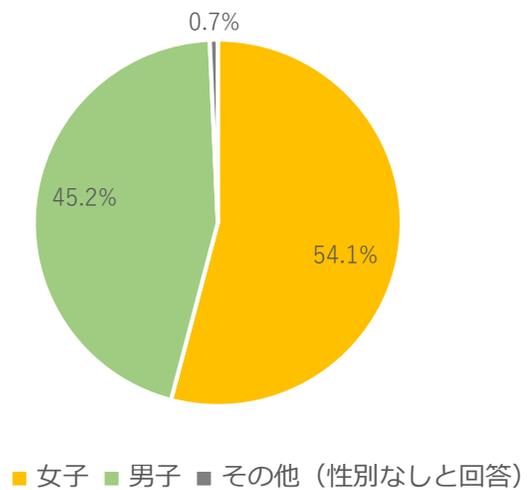
また、今回初めて、Googleフォームにてアンケートを実施しましたが、学生の皆さんからは多くの感想を寄せていただきました。

講座の前後のアンケートを通して、数年後に社会人となる学生が、「働く」ことについてどのように考えているのか、働く目的や働く際の地域選択、女性の働き方等についての意識の変化をまとめましたので報告します。

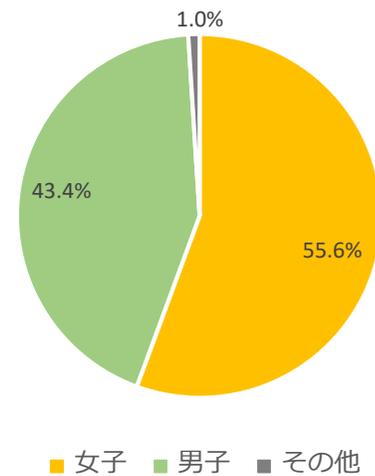
佐賀県立男女共同参画センター（アバンセ）

## 性別

### 講座前

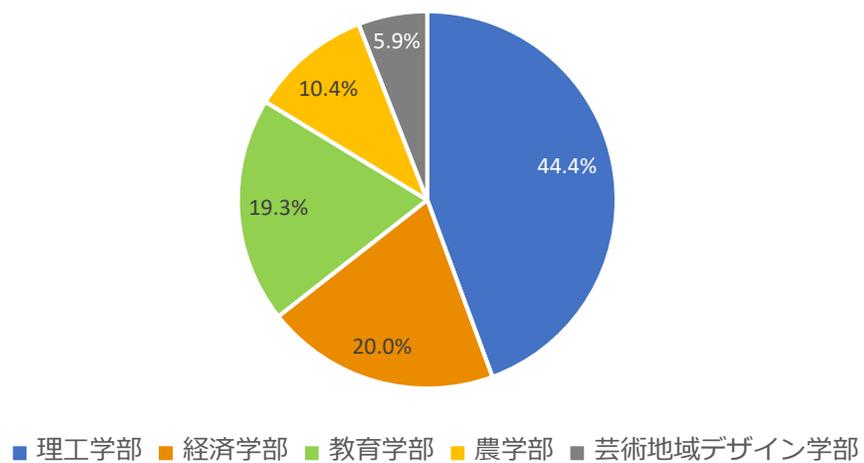


### 講座後

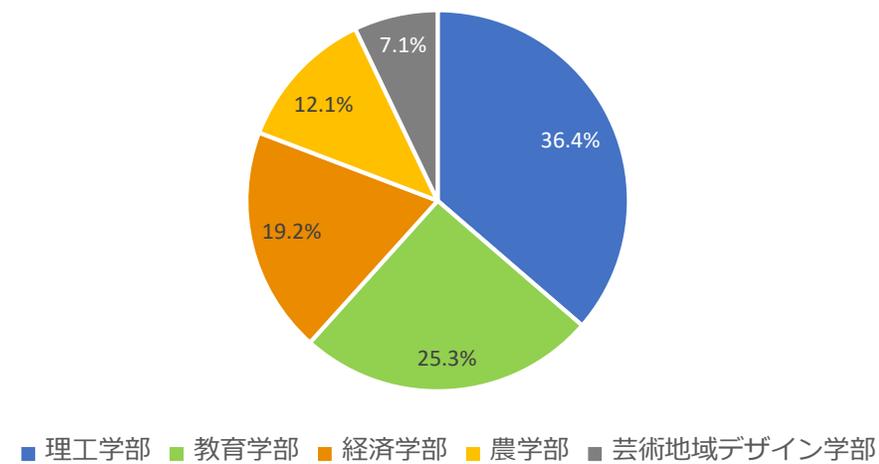


## 学部

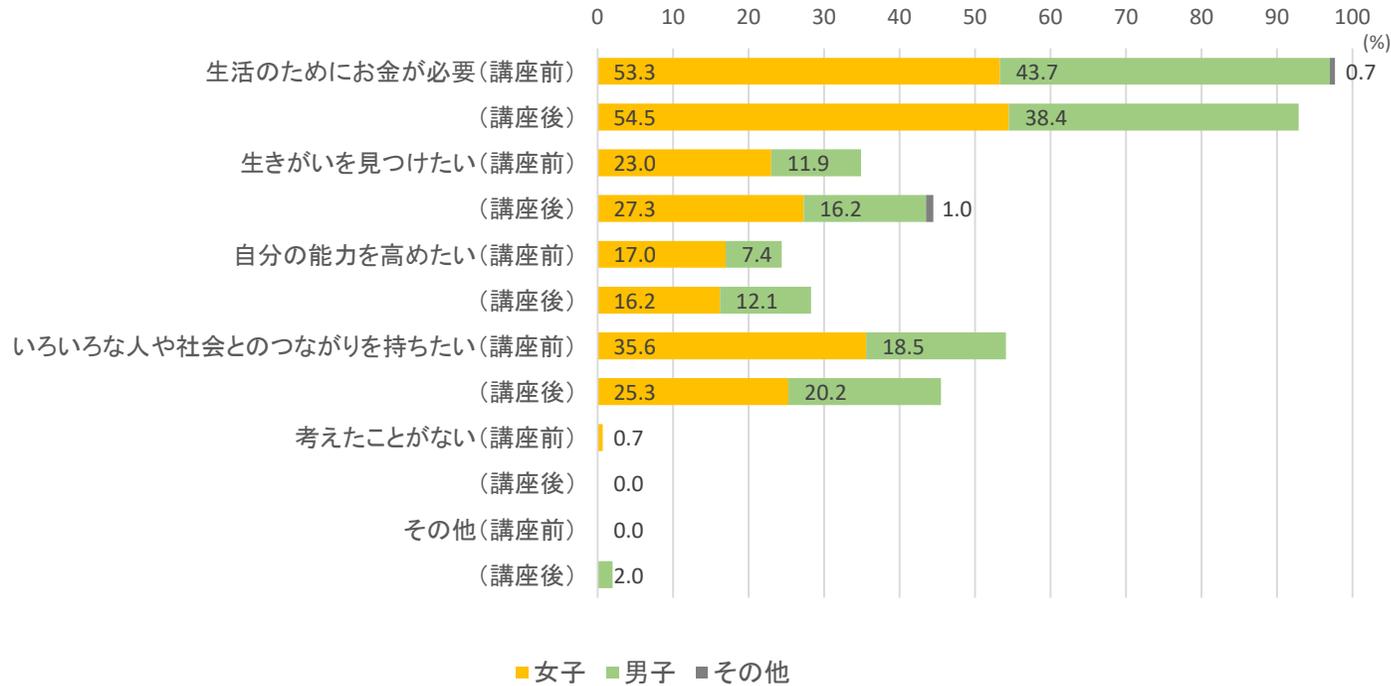
### 講座前



### 講座後



問1 働く目的について、どのように考えるか。(複数回答可)



～問2「その他」の回答～

【講座前アンケート】

回答なし

【講座後アンケート】

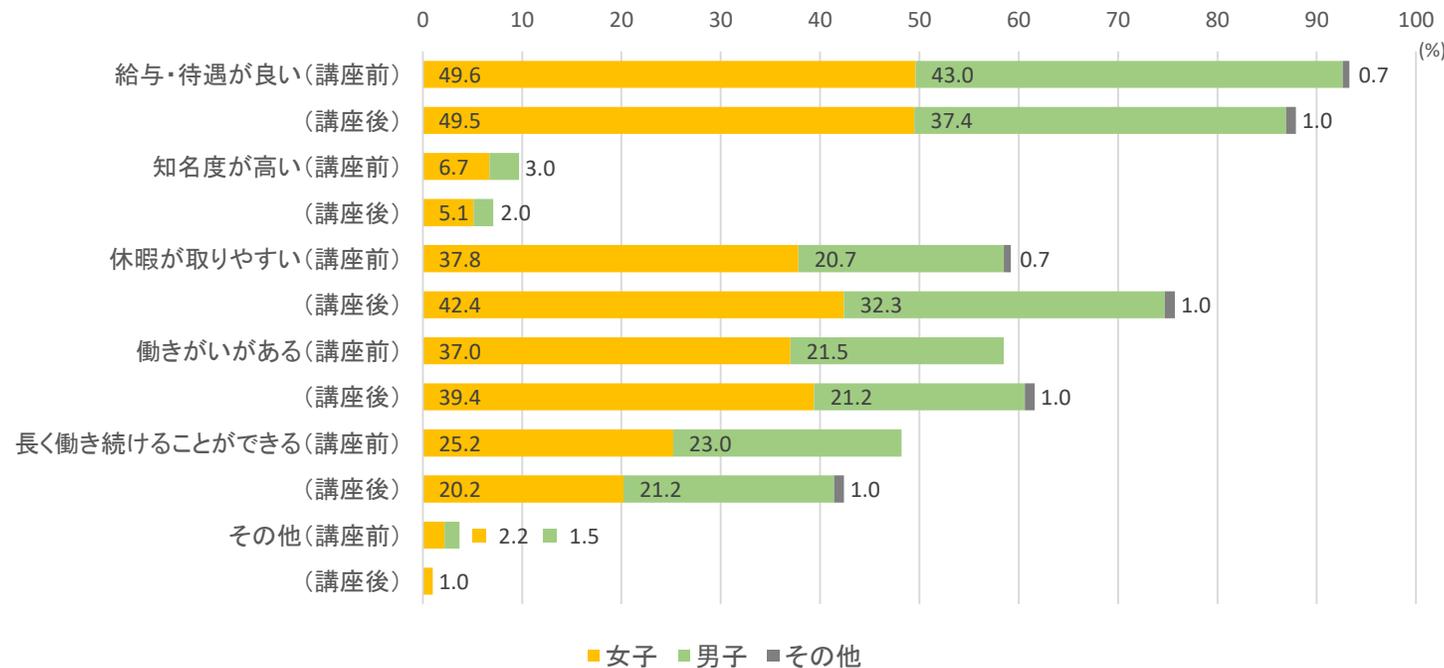
- ・やりたいことをやるため
- ・その事についてもっと知りたいから

〔傾向〕

働く目的の問いでは、「生活のためにお金が必要」と回答した割合が、講座の前後で9割を超えて最も多く、以下、「いろいろな人や社会とのつながりを持ちたい」「生きがいを見つけたい」「自分の能力を高めたい」の順となった。

講座前後の主な変化としては、「生きがいを見つけたい」は9.6%増加し、「いろいろな人や社会とのつながりを持ちたい」は8.6%減少した。

## 問2 就職先を選ぶ基準として、何を重視するか。(複数回答可)



～問2「その他」の回答～

### 【講座前アンケート】

- ・人間関係が良好であるか
- ・ブラック以外
- ・安定している
- ・女性としての待遇が良い
- ・適した環境である

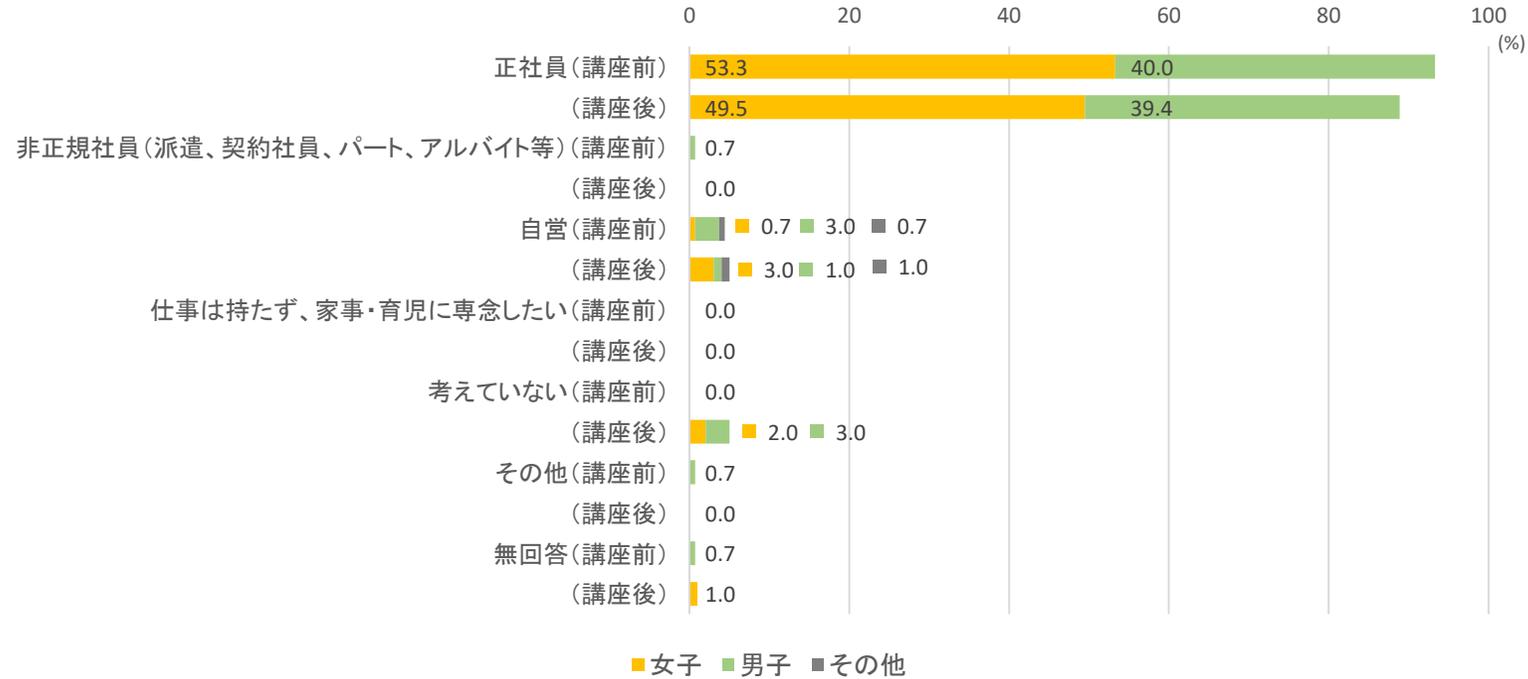
### 【講座後アンケート】

- ・人の雰囲気

### 〔傾向〕

「就職先を選ぶ基準として、何を重視するか」では、「給与・待遇が良い」と回答した割合が、講座の前後で最も多く、以下、「休暇が取りやすい」、「働きがいがある」、「長く働き続けることができる」の順となった。また、知名度を重視する割合は少なく、講座後にはさらに減少した。講座後の変化としては、「休暇が取りやすい」が16.5%増加し、変化の割合が最も大きかった。

### 問3 働くときには、どのような形態を選ぶか。



～問3「その他」の回答～

【講座前アンケート】

・非常勤

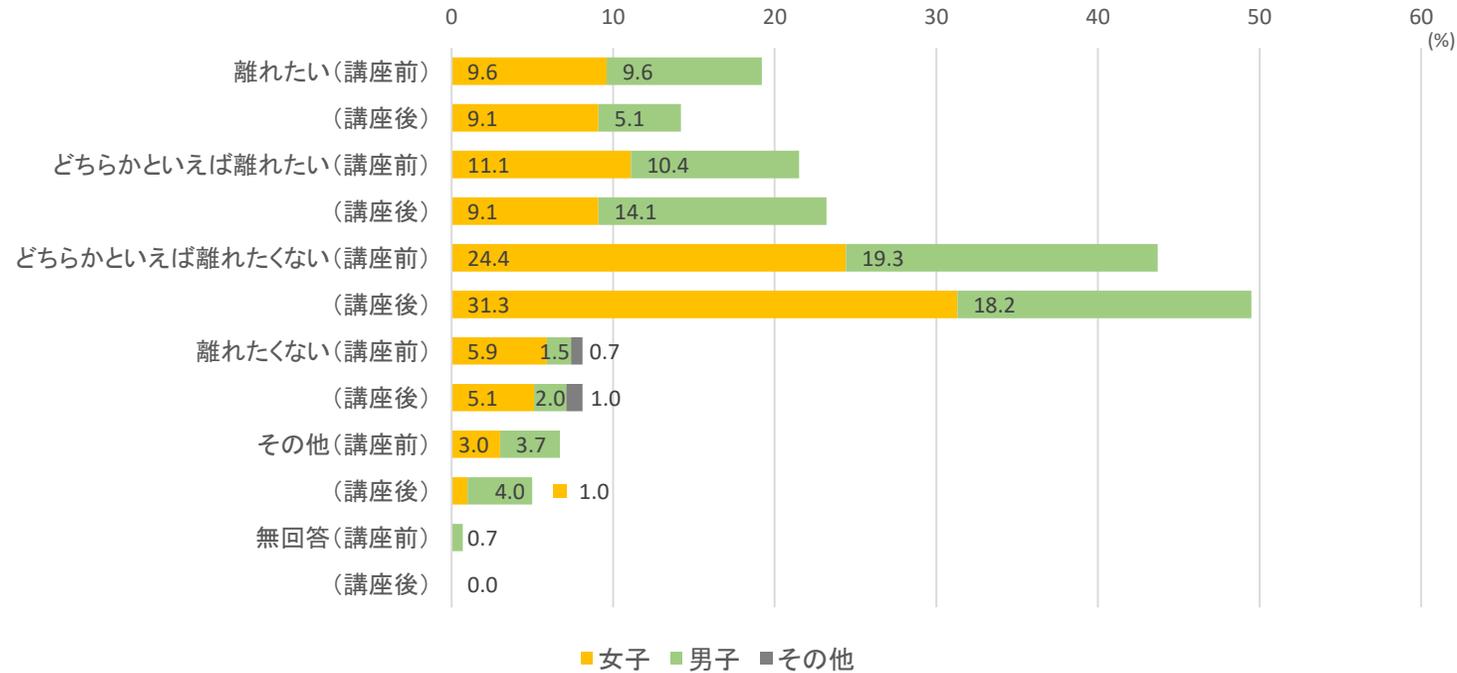
【講座後アンケート】

回答なし

〔傾向〕

働くときの形態は、「正社員」と回答した割合が講座の前後とも約9割を占め、最も多かった。  
講座前後の主な変化としては、「考えていない」が5%増加した。

#### 問4 働くときには、地元を離れたいか。



～問4「その他」の回答～

##### 【講座前アンケート】

- ・ 場所にこだわりはない
- ・ 特に考えていない
- ・ どちらでもいい
- ・ 悩んでいる
- ・ 良い会社ならどちらでもいい
- ・ 離れたいかどうかより大都市で働きたい
- ・ まだ考えが固まっていない

##### 【講座後アンケート】

- ・ 特にないです
- ・ 働く地域のことは気にしていない

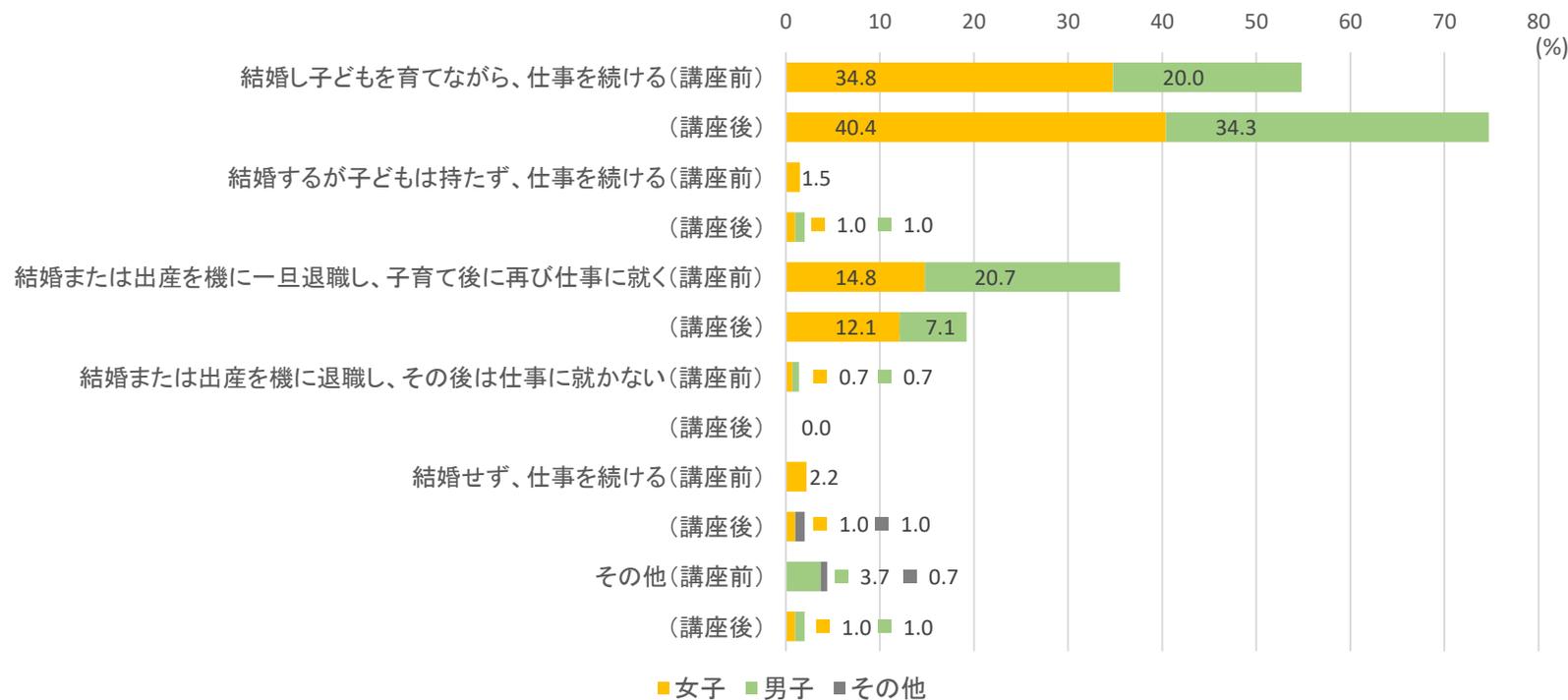
##### 〔傾向〕

「働くときには地元を離れたいか」の問いでは、「どちらかといえば離れたくない」と回答した割合が講座の前後で最も多かった。

講座後の主な変化としては、「どちらかといえば離れたくない」は5.8%増加し、「離れたい」は5.0%減少した。

また、「その他」の回答では、働く場所にこだわらない回答が複数見られた。

問5 女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか。



～問5「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・好きにすればいいと思います
- ・人それぞれの考えがあると思うから、特に働き方に対する考えはない
- ・専業主婦になりたい人はなれば良いし、働きたい人は働けば良いし、男性もまた、しかりであると考えます
- ・女性男性と区別されずに働けた方が良い
- ・女性自身が選ぶ働き方を尊重する。そして、それに協力する
- ・本人の希望によって変わるものだと思うので決められない

【講座後アンケート】

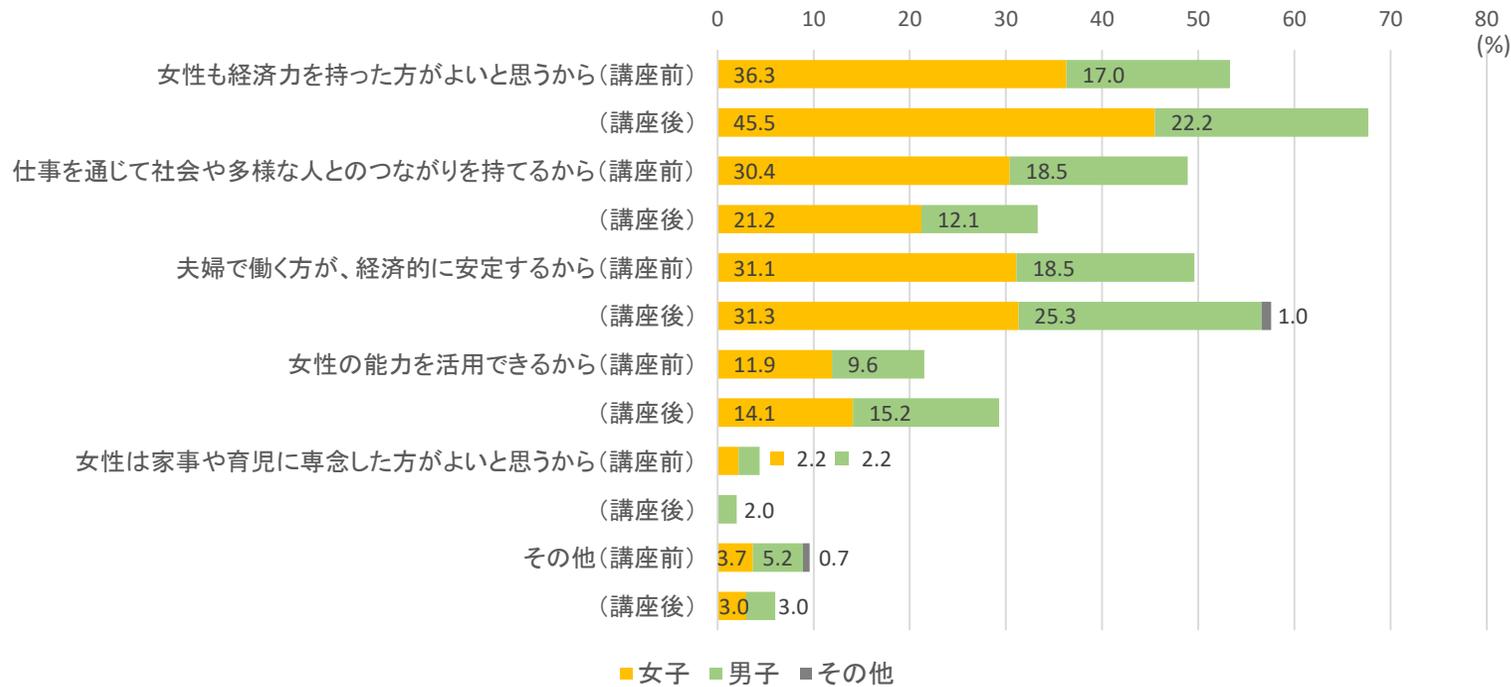
- ・その人次第でいいと思う
- ・場合による

〔傾向〕

女性の働き方についての考えの問いでは、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」と回答した割合が最も多かった。講座後にはさらにその割合が増え、女子の5.6%増加に対し、男子は14.3%増加し、男子の増加の割合が高かった。この増加に伴い、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」の男子の回答は、講座後に13.6%減少した。

また、「その他」の回答では、個人の希望を尊重する回答が多く見られた。

## 問6 女性の働き方について、問5の回答のように考えるのはなぜか。(複数回答可)



### 〔傾向〕

問5の女性の働き方についての考えの理由として、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」の回答が、講座の前後で最も多く、以下、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」「女性の能力を活用できるから」の順となった。

講座後の主な変化として、「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」は15.6%減少し、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」は14.4%増加した。

また、「その他」の回答では、性別で働き方を区別する考え方に違和感を持つ回答が複数見られた。

### ～問4「その他」の回答～

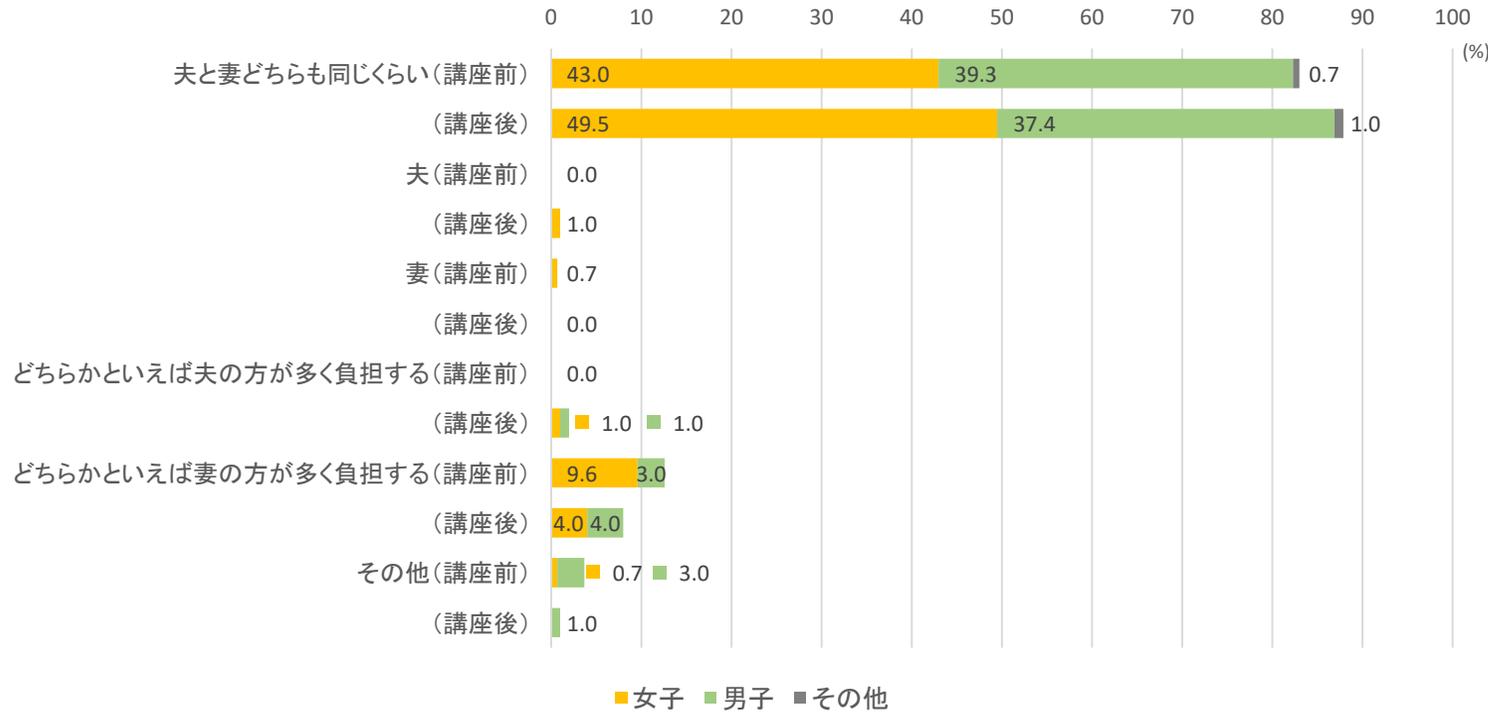
#### 【講座前アンケート】

- ・仕事と育児は別だと思うから
- ・その人にはその人の生き方があるから
- ・本人の意思を尊重すべきだと考えるから
- ・働くかどうかは自分の意思次第だから
- ・出産したら疲れそうだから
- ・例えば男性だって結婚して退職していいと思うから
- ・自分の時間を持ちたいから
- ・男も女も関係ないと思うから
- ・女性だから男性だからという性別で育児の仕方や働き方を区別することは古い考えだと思っているから
- ・結婚してもお金の面で男性に頼りたくないから
- ・身体能力の差を除けば男女に差はないと思うから
- ・幼児を育てながら今まで通り仕事をするのはなかなかやりくりできないと思うから
- ・女性が子どもを持つか、仕事を続けるかの選択を強いられるのは、おかしいと思うから

#### 【講座後アンケート】

- ・子供が生まれたら自分に構ってもらえなくなると思うから
- ・子どもが小さいときはできるだけそばにいたいから
- ・世の中色んな人がいるから
- ・女性にもやりたいことがあるだろうし、1人に負荷をかけるのは違うと思うから
- ・どうすべきかは家庭によって異なるから
- ・幼少期のうちに一緒にたくさんの時間を過ごしたい

## 問7 結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か。



～問7「その他」の回答～

### 【講座前アンケート】

- ・ 仕事をしていない方。両方しているなら同じくらい
- ・ 奥さんが仕事を続けるかどうかによる
- ・ 場合による。専業主婦（夫）ならばそちらの方が多く負担するべきである。共働きなら同じくらい
- ・ 大半が妻と夫、同じくらいだが、育児のため休暇している妻がいる時は、妻に専念してもらいたい
- ・ その時々に応じてできる方が負担する

### 【講座後アンケート】

- ・ どちらでも良いと思う

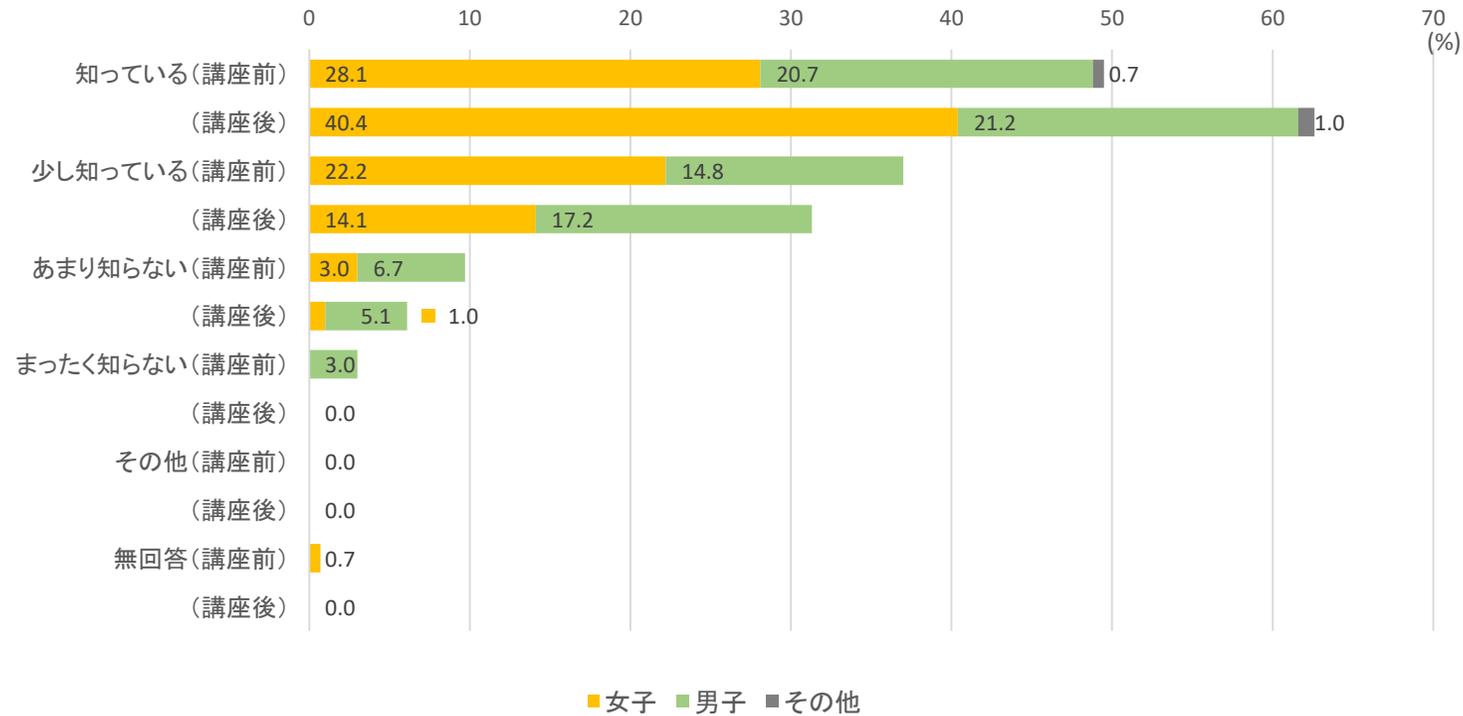
### 〔傾向〕

結婚後の家事や育児の分担については、「夫と妻どちらも同じくらい」の回答が、講座の前後で8割を超え、最も多かった。

講座後の主な変化としては、「夫と妻どちらも同じくらい」は4.9%増加し、「どちらかといえば妻の方が多く負担する」は4.6%減少した。

また、「その他」の回答として、夫、妻のどちらかということではなく、夫婦の働き方に応じて分担するという考えが複数見られた。

### 問8 「ワーク・ライフ・バランス」について知っているか。



～問8「その他」の回答～

【講座前アンケート】

回答なし

【講座後アンケート】

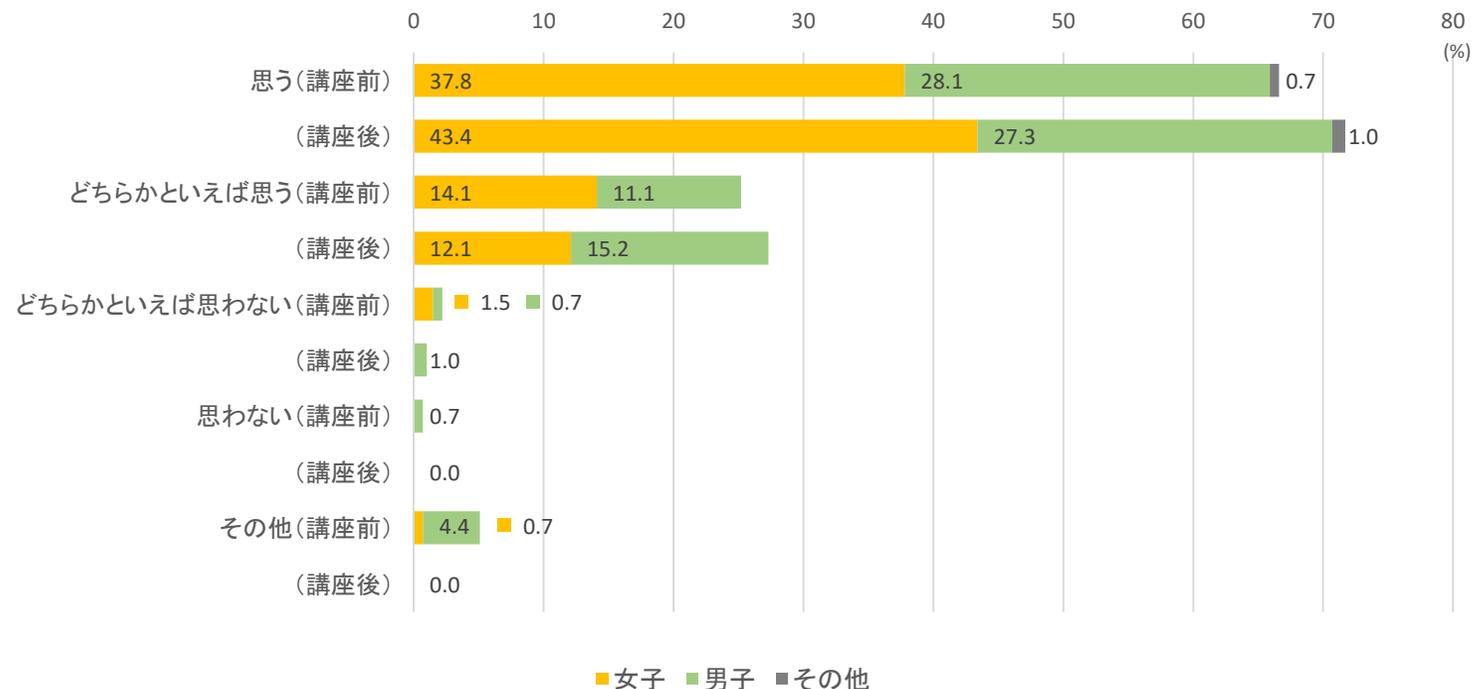
回答なし

#### 〔傾向〕

ワーク・ライフ・バランスの認知度については、講座前の「知っている」「少し知っている」の合計は86.5%で、「あまり知らない」「まったく知らない」の合計12.7%を大きく上回った。

さらに、講座後は、「知っている」「少し知っている」の合計は7.4%増加し93.9%に、「あまり知らない」は3.6%減少し6.1%に、「まったく知らない」はゼロとなった。

### 問9 政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方が良いと思うか。



#### 〔傾向〕

「あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いでは、「思う」の回答が講座の前後で7割前後を占めた。

講座後は「思う」が5.1%、「どちらかといえば思う」が2.1%増加し、「どちらかといえば思わない」は1.2%減少し、「思わない」はゼロとなった。

また、「その他」の回答では、性別ではなく能力を重視する回答が複数見られた。

#### ～問9「その他」の回答～

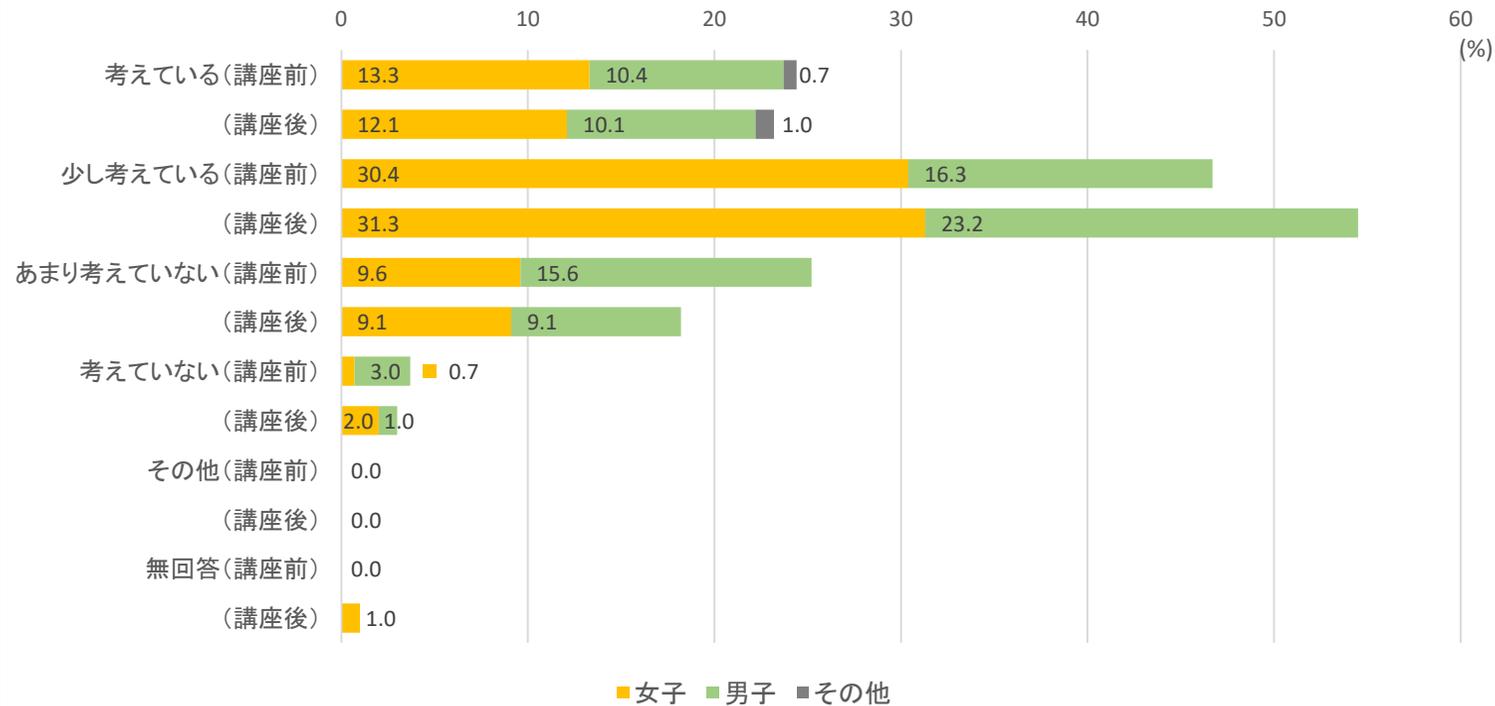
##### 【講座前アンケート】

- ・男女関係なく、能力に合わせて役職に就くべきだと思う
- ・人それぞれなので、したい人がいれば仕事すればいいと思う。わざわざ、女性はその職種についたからと言って優遇したほうがよいわけでもないと思う
- ・見あった能力があればどちらでも良い
- ・女性が増えたらではなく、選ぶ側や選ばれる側の双方で男女による違いを理解した上で偏見なく適した状況になるべき
- ・能力さえ持っていればどちらでも良い
- ・その役割を担うにふさわしい人を選ぶべきであり、男女は関係のない問題だと思う
- ・有能であればどちらでもよい

##### 【講座後アンケート】

回答なし

### 問10 将来に向けて、今何をすべきか考えているか。



～問10「その他」の回答～

【講座前アンケート】

回答なし

【講座後アンケート】

回答なし

#### 〔傾向〕

「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の問いでは、「少し考えている」と回答した割合が講座の前後で最も多く、以下、「考えている」「あまり考えていない」の順となった。

また、講座後の主な変化として、「少し考えている」が7.8%増加し、「あまり考えていない」が7.0%減少した。

今回、「学生への意識啓発事業」の講座の前後に実施したアンケートの結果から、佐賀大学のキャリアデザインを受講する1・2年生の意識変化について、以下のとおり推察しました。

### ○働く目的について

問1「働く目的」では、「生活のためにお金が必要」と答えた割合が最も多く、多くの学生が生計を立てるために働くという考えを持っていることがうかがえます。また、講座後には「生きがいを見つけたい」の回答が増えていますが、講師から学生に向けて「自分の興味のあることを見つけてほしい」とメッセージを送られたことが、多少影響しているように思われます。

### ○就職先を選ぶ基準について

問2「就職先を選ぶ基準」では、講座の前後とも給与や待遇面が最も重視されていますが、講座後のアンケートでは、休暇の取りやすさを重視する割合が著しく増えました。この背景には、講座の中で、一家の大黒柱として男性だけが働くことのリスク、働く女性にかかる家事・育児の負担、また、コロナ禍における自殺者の増加について触れられたことで、ワーク・ライフ・バランスを実践することの大切さを実感したことがあるのではないかと考えます。

### ○働くときの形態について

問3「働くときにはどのような形態を選ぶか」では、講座の前後とも約9割が「正社員」と回答しており、大半の学生が安定した雇用形態を望んでいることがわかります。また、講座後には若干数ではありますが、「正社員」の回答が減り、「考えていない」の回答が増えていますが、これは講座の影響とは考え難く、講座の前と後での回答者数の違いが影響しているものと思われる。

### ○働くときに地元を離れることについて

問4「働くときには地元を離れたいか」では、地元志向の割合が高く、講座後にはさらに増えています。一方で「その他」の回答として、働く場所にはこだわらない回答も複数ありました。多様な働き方が進みつつあり、コロナ禍でテレワーク等実践する企業が増える等、働き方の選択肢が増えていることも背景にあるのではないかと考えます。

### ○女性の働き方に対する考え及びその理由について

問5「女性の働き方についての考え」及びその理由（問6）では、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」の回答が最も多く、講座後にはさらにその回答が2割程度増えました。回答の理由として、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」「夫婦で働く方が経済的に安定するから」と回答した割合が多く、講座後にはさらに増えました。これは、講座の中で、夫だけが一家の大黒柱として働くリスクや、妻が正社員で働くことのメリットをジャンボ宝くじの当選に例え、夫婦で家事・育児を分担しながら仕事を辞めることなく乗り切ってもらいたいと伝えられたことが、影響しているのではないかと考えます。

### ○夫婦の家事分担について

問7「結婚後の夫婦の家事分担」では、「夫と妻どちらも同じくらい」と回答した割合が大多数を占めており、講座後にはさらにその割合が増えました。また、講座後には「どちらかといえば妻の方が多く負担する」の回答が減り、中でも女子の回答が大きく減りました。女子自身が「家事は女性の役割」との思い込みが潜在的にあったと思われ、講座を通して、固定的性別役割分担意識の解消について学んだことが回答の減少につながったのではないかと考えます。

### ○ワーク・ライフ・バランスの認知度について

問8「ワーク・ライフ・バランスの認知度」については、講座前から認知度は高く、講座後にはさらに「知っている」の回答が増え、「あまり知らない」は減り、「まったく知らない」はゼロとなりました。男性が家事・育児にしっかり関わっていかないとワーク・ライフ・バランスの問題は解決しないことを学んだことで、ワーク・ライフ・バランスの本質についての理解がさらに進んだのではないかと考えます。

### ○女性の役職への登用について

問9「政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いでは、「思う」の回答が多数を占め、講座後にはさらにその割合が増えました。就職活動の際に、働きやすい会社かどうかを見分けるポイントとして、女性の管理職の割合や子育て中の女性管理職の有無等に注目することを挙げられ、なぜそれらに着目するのかを学んだことにより、女性を役職へ登用することの必要性を理解できたのではないかと考えます。

### ○将来に向けての準備について

問10「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の問いでは、「少し考えている」と回答した割合が講座の前後とも多く、講座後にはさらにその割合が増えました。「考えている」の明確な回答は増えなかったものの、講師から「大学は無駄を学ぶところ。何が役に立つかは後にしかわからないが、面白いこと、興味のあることをじっくり見つけてほしい」とのメッセージが送られ、これからいろいろな経験を通して、将来に向けての準備をじっくりと考えていくのではないかと考えられ、それが回答にも反映しているように思われます。

今回、ワーク・ライフ・バランスの学びを通して、男女共同参画の本質について考えるとともに、自分が目指す将来に向けて、これからどのように取り組んでいくのかを考える機会になったのではないかと考えます。